



## 第60回夏期学校を迎えて

(社)才能教育研究会 会長

中 嶋 嶺 雄 (国際社会学者)

今年も信州松本市での夏期学校がオープンします。2009年の夏期学校は第60回となりますので、わが国においても、長い歴史と伝統を有するユニークな教育イベントだといってよいでしょう。全国そして世界の各国・各地域からお出でくださった皆さん、ようこそ松本へ。

松本市は日本の地方都市のなかでも北アルプスや美ヶ原高原の山々に囲まれた個性的な文化都市であり、それを山岳の「岳」、学問の「学」、音楽の「楽」という三つの「がく」をとって、「岳都」・「学都」・「楽都」と表現しています。音楽の「楽」にはここ十数年来、世界的な指揮者・小澤征爾氏で知られるサイトウ・キネン・フェスティバルも加わりましたが、なんといっても源泉はスズキ・メソードであり、いまや全世界に知られる才能教育であります。

松本に生まれ育った私は、毎年夏に帰省すると、小さなヴァイオリン・ケースを手にした子どもさんたちとお母さんを駅や街角でよく見かけることがありました。そうした光景を私はいつも微笑ましく思っていたのですが、外国からの参加者も多い才能教育研究会の恒例の夏期学校のおかげで、松本市は全国の都市に先駆けて国際化されてきていたのです。いまや全世界に約40万人の生徒を擁するスズキ・メソードの広がりによって、MATSUMOTOの地名も世界的にかなり知れわたっております。

2009年は才能教育研究会の第60回夏期学校という節目の年であり、各地からの約1500名の生徒に、保護者の方々、指導者やスタッフを加えると総勢4000人近くが集まることになるでしょう。2009年4月には第15回スズキ・メソード世界大会がメルボルンで盛大に開かれたこともあって、世界各国からも多くの外国人参加者が期待され、国際色も豊かになることと思います。プログラムも年々充実してきていますので、楽しく実りの多い信州の夏の素晴らしい教育現場になることを、会長としてお約束いたします。

私自身は終戦直後の1947(昭和22)年から才能教育研究会の前身である松本音楽院で鈴木鎮一先生に直接ヴァイオリンを教えていただいたのですが、その鈴木先生はもう半世紀以上も前に、「義務教育まえのすべての子どものよい成長のために全精力を注いでほしい」(鈴木鎮一著『愛に生きる—才能は生まれつきではない』、講談社現代新書、1966年初版)と唱えていました。そのような幼児教育の重要性が、今日の教育崩壊や家庭での人間関係の喪失に直面して、改めて認識されつつあるのが現状だといってもよいでしょう。

それだけに才能教育研究会の夏期学校は、いまや音楽教育の貴重なモデルであるばかりか、わが国の教育再生の起爆力になるものと確信しています。音楽を通じて信州松本から全国・全世界に発信されるメッセージが、多くの人々の共感を得られますことを心から期待しております。